

「送迎人生」の見える実態

～家族送迎の担い手と交通政策の課題～

土井勉¹、西堀泰英²、外山由里絵³、岡山一郎⁴

(1 (一社)グローバル交流推進機構, 2大阪工業大学, 3名古屋大学未来社会創造機構, 4山陽新聞社)

なぜ送迎交通＝送迎人生に注目するのか

- これまでの交通政策の主流は、**移動需要をベースに移動サービス**を供給
- しかし、**人口減少・労働力不足・燃料費高騰**などを背景に**移動需要が減少**

需要に合わせてサービスを供給すると、サービスそのものの縮減化→**負のスパイラル**

必要な供給を提供することで、需要も拡大しまちも賑わうことに→**正のスパイラル**

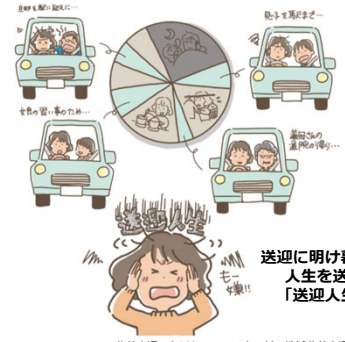
正のスパイラルを動かす契機として、送迎からの自立を図る交通政策が期待される

家族送迎は、担い手にとって負担だけでなく良い面も

- ・ **背景と目的**：送迎について「送迎人生」と表現される**負担感**を感じる人がある一方で、**家族にとって良い時間**という意見もあり、これらの背景が十分に把握できていなかった。そこで、送迎者へのアンケート調査結果から実態を明らかにする。
- ・ **調査の概要**：岡山県を中心に読者を持つ山陽新聞社の「吉備の環プロジェクト推進センター」は、2025年6月30日の朝刊で「送迎人生」の特集記事を掲載し、送迎に関する調査を2025年6～7月に実施した。回答者総数997名のうち、**送迎を行っている人と行っていない人がそれぞれ約半分**(送迎していない人も関心持つ問題)



家族のために送迎することは喜びである場合も

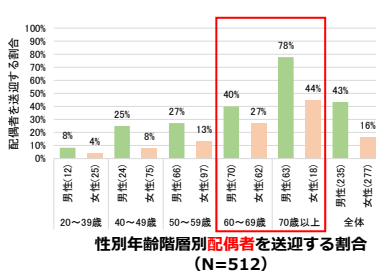
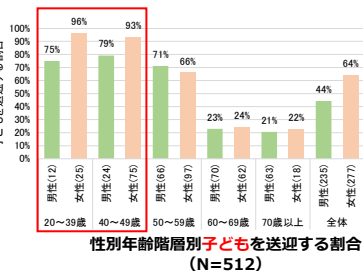


送迎に明け暮れる人生を送る「送迎人生」

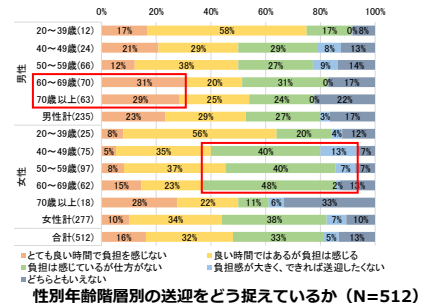
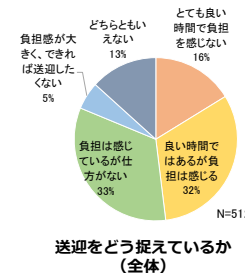
公共交通のトリセツ：100人の村で地域公共交通を考える
<https://kotsutorisetsu.com/primarily/100village/>

家族送迎の実態や負担感は、男女の間に差がある

子どもの送迎は主に女性(特に20～49歳)が担い、配偶者の送迎は主に男性(特に60歳以上)が担う



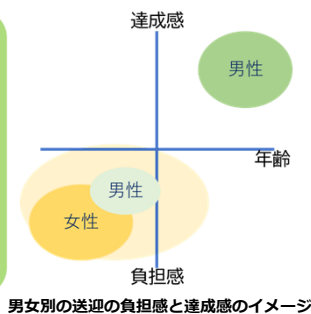
送迎は良い時間と肯定的に捉える割合：男性は23%、女性は10%
高齢男性は3割が肯定的、40～60代女性は半数近くが仕方がない



交通政策において送迎の問題をどう扱うか検討が求められる

女性や若手男性は**負担感**
対して高齢男性は**達成感**

送迎を分担することで負担問題は軽減できるのでは？



男女別の送迎の負担感と達成感のイメージ

「公共交通のトリセツ」HPでの「送迎人生」の発信をきっかけに、**送迎交通の問題が交通政策の重要な課題との認識が広がってきた**

山陽新聞紙面で、中学生が「送迎人生」を踏まえて**公共交通政策について考えた作文(右)**が紹介された(岡山市長賞受賞)

中学校 岡山市長賞
安心して利用できる公共交通の強化を
倉敷市・清心中2年 平松 夢さん

この記事を読んで、ハッとしました。私自身も、家族のために送迎をしています。送迎は、家族の安全を守るための大切な役割です。しかし、送迎は単なる移動手段ではなく、家族の絆を深める時間でもあります。送迎を通じて、家族の健康や安全を守ることが、私たちの最大の責任です。

送迎は、家族の安全を守るための大切な役割です。しかし、送迎は単なる移動手段ではなく、家族の絆を深める時間でもあります。送迎を通じて、家族の健康や安全を守ることが、私たちの最大の責任です。

あなたの意見をお聞かせください

交通政策において送迎の問題をどう扱うべきか、あるいは送迎に対する意見など(肯定や否定、どう対処すべきか、実体験、地域で取り組んでいる事例等)